



下塚田ふるさと応援隊

Mission

“豊かな”暮らし，“夢ある”ふる里

地域住民が主体となり、多様な人々をつなぐ魅力ある地域づくりを目指す

Vision

ゆめゆたかのさと

私たちにしか、描けない未来がある

| | | | | | | | |
|----------------|---------------------|---------------|------------------|---------------|--------------|--------------|----------------|
| と | さ | の | か | た | ゆ | め | ゆ |
| 友に助け合える心豊かなふる里 | 再生可能な地域資源いっぱいのあるふる里 | のびのびと夢を描けるゆる里 | かけがえのない温もりのあるふる里 | たたずまいが心に残るふる里 | 豊かで笑顔あふれるふる里 | めぐる思い出の場所ふる里 | 夢に向かって挑戦出来るふる里 |

Value

“豊かな”暮らし，“夢ある”ふる里

共に感じ、共に生きて、共に活動する

共感

共生

共同

「豊かな暮らし、夢あるふる里」

地域住民が主体となり、多様な人々をつなぐ魅力ある地域づくりを目指す

① 農用地保全

現状と課題

- ・担い手の高齢化により、生産力の低下し農用地保全活動が縮小。
- ・担い手の集約化や圃場整備の意識醸成、関係機関との協力体制の構築が課題。

課題解決に向けた対応方針

- ・担い手（後継者）確保のための新たな方法や省力化のためのデジタル技術の導入を検討
- ・耕作地以外の草刈りや水路管理、景観維持等の持続可能な運営体制を検討

② 地域資源の活用

- ・地域の特産品（柑橘類）はあるが、労働力不足で生産力が低下。（特に収穫時期）
- ・柑橘類の収益力向上も課題
- ・農業者を中心に景観維持や交流人口を図るイベントに取り組んできたが、担い手不足が懸念される状況。

- ・特産品の生産力向上のため、収穫時期の労働力確保の検討
- ・特産品の収益力向上を図るため、柑橘類（極早生みかん、レモン、きんかん）やもち麦、わかば米等の商品化、ブランド化し販路拡大を目指す
- ・人手不足の中で鯉のぼり祭りやひまわり祭り、神楽等の地域内イベントの維持に向けた運営体制や実施方法の検討。

③ 生活支援

- ・少子高齢化による人口減少で、公共交通機関の減便や路線の廃止が進み、住民の移動手段の確保が課題
- ・住民同士の交流機会が減少し、関係性が希薄化
- ・ゴミ出しや空き家の荒廃等、住民同士の助け合いだけでは解決が難しい課題も表面化しつつある

- ・移動手段の確保に向けて、移動支援システムの構築に取り組むため、活用可能な事業や事例を調査。
- ・安全/安心なコミュニティを維持するため、自治会活動等の在り方や担い手不足の確保を検討。
- ・地域住民が集う交流拠点づくりを検討

【活動のステップ】 ※令和6年度~7年度

立ち上げ期
R6~

形成期
R7~

定着期
R8~

①仲間づくり

農村RMOの第一歩となる地域の将来を共に考え共感できる仲間づくり

②合意形成を図る

農村RMOの必要性や地域が目指す方向性を共有し、関係者同士の合意形成を図る

③将来ビジョンの策定

下塚田地区が持続していくために「何が必要か」を地域の課題と整理し将来のビジョン（地域が目指す姿）とその筋道を立てる。

①活動に向けた調査/実証

（農用地保全）

- ・中間管理機構関連圃場整備事業の推進
- ・スマート農業に向けた通信環境の整備

（地域資源の活用）

- ・特産品（柑橘類等）の販売促進会の開催
- ・ECサイトや小規模農産物直売所の検証
- ・「農道軽トラ市」の実証実験
- ・下塚田レモンで収益力向上を図るため保存技術の実証

（生活支援）

- ・福祉ワゴン（ライドシェア等）や高齢者世帯などの見守り等福祉活動の検討
- ・地域住民の交流拠点づくりに向けた調査
- ・地域内イベント活動について時速可能な実施方法や運営体制の構築

①自立性を図るための展開・計画

各分野でシステム構築し収益化の方法を確立させ、自主財源で持続可能な街づくりに向けて取り組む

②具体検討施策

- ・柑橘類等を中心にブランド化し、さらなる販路拡大に向けてプロモーションを実施
- ・後継者への引継ぎや新たな担い手確保に向けた取組強化
- ・拠点づくりを実行（空き家活用も視野に入れて）し、農業振興や自治体活動の持続的な運営体制の構築とコミュニティの維持を図る。